

金子彦二郎 （おごう） 國文學者、文學博士。明治二十二年六月、二十日新潟縣生まれ、昭和二十二年五月、二十七日没（一九九一—一九五八）。號龍蛙莊主人。昭和二十年帝國學士院賞受賞。

著書、詩と『お茶の水から』（大正十一年一月十日寶文館）、『言葉の神秘性』、『神』、『徹せる國語教授へ』（昭和二年十月四日昭和出版社）、『校中納言物語』（昭和四年二月）、『百國民圖書株式會社』、（全註）

『民衆語の精進作與新讀本』（昭和四年十一月）、『二十日昭々閣書房』、（新註）『打んぐり鳴る太鼓』（昭和四年十一月）、『二十八日昭々閣書房』、

『教育と文學』（昭和十七年一月五日小樽館「教育新體制叢書」）、
『平安時代文學と白氏文集』（道真の文學） 研究篇・第一冊』（昭和二十二年九月

月）二十日大日本雄辯會講談社）等。

文獻、堀七蔵編『故文學博士金子彦二郎先生』（昭和二十二年九月）
『金子彦令』二刊）等。

